



開催報告：持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ キックオフセミナー

- ・福島県では、小さな拠点・地域運営組織の形成を通じて持続可能な地域コミュニティの共創を目指す「持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ(共創カレッジ)」に取り組んでいます。この取組のキックオフイベントとして、以下のとおりセミナーを開催しました。
- ・セミナーには自治体職員ら約60名が参加し、高崎経済大学 櫻井常矢 教授による基調講演を通じて地域運営組織形成の意義やプロセス、市町村の関わり方などについて、理解を深めました。

共創カレッジHP ▶



開催概要

- 日時：令和6年7月1日（月）14：00～16：00
 会場：福島県ハイテクプラザ多目的ホール（対面形式）
 内容：①事業概要説明
 ②基調講演
 講師：高崎経済大学地域政策学部教授 櫻井常矢 氏
 演題：人口減少時代の地域づくりを進めるために
 ー地域運営組織の意味と展開ー

- 参加人数：58名（自治体職員39名、集落支援員7名、地域おこし協力隊2名、中間支援組織9名 など）
 取材：福島民報社、福島民友新聞社
 主催：福島県企画調整部地域振興課
 運営：「持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ」事務局（みらいくる）



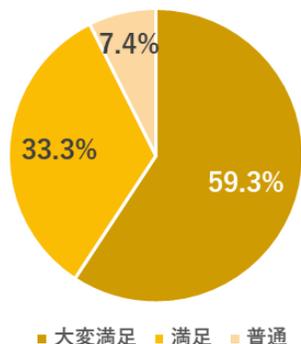
< 講演する櫻井教授 >



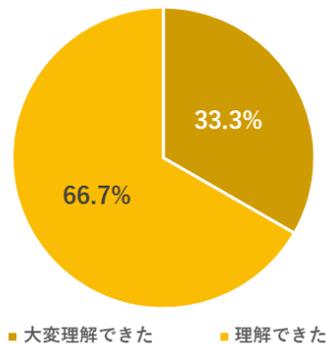
< セミナー会場の様子 >

参加者アンケート（抜粋）

櫻井教授の基調講演に関する満足度 (n=27)



小さな拠点・地域運営組織の取組に関する理解 (n=27)



参加者の感想（一部）

- ・イベントなどの事業活動が目的となりやすいが真に大切な部分は地域課題の把握や住民等の話し合いであること、行政ができる課題解決は意外と少ないことなどRMO等の知識や進め方だけでなく自分の業務を見つめ直す上でも参考になった。
- ・地域住民が自分ごととして考えないのは行政の関わり方に原因があるという事にハッとさせられました。もっと色々なノウハウをお聞きしたかったです。
- ・今回、参加して小さな拠点や地域運営組織について、「何となく」しかなかったイメージが具体化できた。大変参考になった。桜井メソッドは課題解決まで時間がかかるケースもあるため、待たなしで各地で対応を進めながら、あとは高齢化との競争なんだなと思った。
- ・過疎、中山間地域がほとんどを占めている割には、小さな拠点・地域運営組織がもつ意味や定義すら知らない職員が多いと思う。将来に備え、今からもっと県市は、推進していくべきだと思う。